

只今、上程されました第86号議案「中野区知的障害者生活寮条例を廃止する条例」に対し、反対討論を行います。

本議案は、知的障害者生活寮大和荘・やよい荘を廃止し、在宅障害者児緊急一時保護事業を廃止するものです。

この事業廃止について反対理由を申し上げます。

第一に、利用者の方々の声を受け止める姿勢の欠落と配慮の無さについてです。

知的障害者生活寮・在宅障害者児緊急一時保護事業の見直しについては、10月9日の厚生委員会で、初めて報告が行われました。そして、そこから、見直し案の利用者説明、区民周知がされています。

私がお話を伺った障害のある娘さんと暮らす母子家庭の方は、福祉作業施設を利用されてはいますが、説明会に参加できず、人づてに今回の話を聞き、「もう決まってしまったことなのでしょう」と、不安な思いを抱えつつも決まってしまったことなのだから仕方ないと諦められていました。

これまでの区政において、こんなにも短い期間に、代替案も示さぬまま、いきなり事業を廃止してしまうということはなかったのではないのでしょうか。

区民との対話を旨とする区長として、利用者の皆さん、障がい者・障害児を抱え、日々奮闘する家族の思いをお聞きになったうえでのことでしょうか。

区として、十分な検討を図ったが廃止せざるを得なかったのであれば、利用者の側に立ち、十分な意見交換をすべきではなかったのかと声を上げることのできない方たちへの配慮のなさに憤りを感じます。

これでは、福祉切り捨てと思われるような仕方のない行為ではないのでしょうか

これまで長年行ってきた事業を廃止するという事について、意見も聞かれぬまま唐突に聞かされたことで、多くの利用者、さらには障害者の家族の方たちが嘆き悲しんでいます。

第二には、事業者募集についての努力が本当にされたのかが疑問であるという事です。

そもそも廃止ありきの事業者募集ではなかったのか、本当に継続させるために良い事業者に来てもらおうという募集であったのか、区の努力が全くうかがえません。

区は、受託事業者が無かったということを経営の理由にしていますが、これまで受けてきた大手の事業者ですら続けていくのが困難と思われるスキームのまま、どれだけの数の事業者に当たったとしても、受託する事業者が現れるのは無理であることを承知の上だったのではないのでしょうか。

本気でこの事業を続けようとするのであれば、現在の受託事業者も継続できないと分かった時点で、早急にスキームを変更し、指定管理料の増額など、見直しを行うべきであったと考えます。そこには何としても、事業を継続しようという思いが感じられません。

第三に、廃止を決める前に、その受け皿や改善策を先に示すべきであるという事です。区は、「平成18年の障害者自立支援法、平成25年の障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の施行により、障害のある方が地域で安心して暮らすことができるよう総合支援法による障害福祉サービスとして、共同生活援助及び短期入所の整備が進められ、区内においても施設が整いつつある。」と、説明しています。

しかし、整いつつあるという事は、現在は、整っていないことを意味しています。また、事業継続のために、どれほどの検討がされ事業改善をされようとしたのかが、見えてきません。

例えば、やまと荘の建物は、建築から48年が経過しており、エレベーターがないことにより利用者が限定され、緊急一時保護事業の利用率は低い状況にある。としていますが、利用しやすい環境に改善することを検討されたのでしょうか。

また、医療的ケアが必要な障害者(児)は、看護師の配置がないため、これまで使いたくても使えなかったということもありました。使える事業に改善してほしいと訴えてきた当事者やご家族の思いは届かず、利用率が低いと断定されるのは区民の声を十分聞き取れていないこととなります。区民ニーズに応えるという姿勢にかけています。

区民の声を受け止め、我が会派は一般質問で、代替となる施設での看護師の加配を求めましたが、その答弁は、「今後は、区内のショートステイにおいて医療的ケアが必要な障害のある方の受け入れが可能となるよう、事業者に対し働きかけを行うことを含め、効果的な支援方法等について検討していきたい」というだけにとどまりました。

障害児の保護者の思い、当事者の思いに共感し、具体的な対案を持って少しでも安心していただくという気持ちが全く感じられず残念でなりません。

障がいのある人も安心して住み続けられるための地域包括ケアシステムの盤石な構築を目指されている区長として、代替案も無しに廃止を決めることはあってはならないと考えます。

以上が本議案に対する反対理由です。

最後に、利用者のニーズに応え、真に利用しやすい緊急一時保護事業を提供するとともに、障害者とその家族の思いに寄り添い、その声を活かし、中野区の障害者施策がさらに充実することを求め、反対の討論といたします。